

『ビワと魔法』

【人物】

菊池京子・・・出張で長崎に来て、時間が出来たので観光している。

安藤みつき・・・菊池とは大学の同級生で、現在長崎在住。菊池の観光に付き合っている。

露店の店員

香月奈美

宮野先輩

(グラバー園前の坂道。

お土産物の露店が並んでいる。

一軒の果物屋さんがフレッシュジュースを売っている)

菊池：ねえ。

安藤：ん？

菊池：ちょっとあれ飲みたい、買って来る。

安藤：どれ？

菊池：生ビワジュース。

安藤：あ、私も飲もうかな。

菊池：ビワジュース2つ。

(菊池、びわジュースを2つ使う)

店員：ありがとうございます。よかったら奥でどうぞ。

(店の奥が木陰になっており、机や椅子が陰の下に置いてある。

2人、奥に座りジュースを飲む)

菊池：木陰いいね、涼しい。

安藤：うまー。

菊池：びわジュース珍しい。

安藤：今の時期だけやないかな。

菊池：今日アリガトね、暇つぶしに付き合ってもらって。

安藤：いいんよ、住んでると逆に来んし。時間まだいいん？

菊池：うん。

(菊池、席を立ち果物屋さんの商品を見る)

菊池：ビワの葉茶とかもあるん。

安藤：ビワって万能薬らしいよ。

菊池：何に効くん。

安藤：うちのおじいちゃんがガンしたとき、おばさんがビワの種煎じたの飲ましてた。

菊池：へー。『抗がん作用、沈痛作用、抗炎症作用、抗菌作用・・・美味しいのかな。』

安藤：私は好き。

菊池：で、治ったの？

安藤：え？

菊池：ガン。

安藤：ああ。92だったし、飲んでも飲まなくても死ぬ歳やし、効果はわかんない。

菊池：種を煎って？

安藤：砕くの。

菊池：こう、ゴリゴリと？

安藤：おばさんはミキサー使ってたけど。

菊池：ふうん。

菊池：なんか魔女みたい、煎じて飲むとか。

安藤：魔女つつうか民間療法。

菊池：そういや最近、香月ちゃんに会った？

安藤：香月ちゃん？うんにゃ。なんで。

菊池：私さ、香月ちゃん魔女やと思うんよ。

安藤：あーアロマオイルとかに凝っとったし、なんとなくスピ系やから？

菊池：それもそうやけど・・・呪いがすごいんよ。

安藤：呪い？

菊池：最近香月ちゃんのツイッター見つけたん。

安藤：ツイッターしてんだ、意外。

菊池：意外どころかちょ一つぶやきまくっとるよ。で、それ見てると調子悪くなるんよ。

安藤：そんな気持ち悪い事ばっかつぶやいてんの？

あ、それか社会的な事ばっかつぶやいちゃうタイプ？

菊池：内容とか関係なくさ、

お腹痛くなったり、鼻水止まらんくなったり、微熱が続いたりすんの。

安藤：関係ないやろ。

菊池：関係あるって。だって見るのしばらくやめたら治るっちゃもん。

安藤：どんなことつぶやきしよるん。

菊池：夕飯のおかずのこと掃除のこと本の感想、彼氏の悪口、過去の、

安藤：彼氏ってまさか宮野先輩？

菊池：うんたぶん。

安藤：まだ続いとるんや。

菊池：よくわかんない。すごい悪口書いてるけどまだ一緒に住んどるっぽい。

安藤：宮野先輩略奪事件が大学2年のとき？やけん、

菊池：7年前。

安藤：そんななるん。

菊池：自分の生活のペースを乱すとか、

話しかけ方に哀れみを感じるけど私は哀れに思われる必要はないとか、
人の気持ちを考えろとか。

安藤：それ宮野先輩に対して？香月がつぶやいてんの？

菊池：そう。

安藤：よく言うねえ、昔超ラブラブやったやん、

中庭のベンチで尻なで合ったり講義中机の下で手握り合ったり。
宮野先輩の元カノの気持ちでも考えたらどうかね。

菊池：私いっぺん宮野先輩にダメだししたら香月にビンタされたし。

安藤：え、あんたもビンタされとったん？

菊池：みつきも？

安藤：いや私は目撃しただけ、杉浦君の。

菊池：あー杉っちなね。

安藤：あんた何したん。

菊池：学祭るときさ、宮野先輩リーダーで男子がパネル展示、
で女子は買い出し行ったんよね。戻って来たら出来とったんやけどさ、
ちょっと斜めなとこがあったけんさ、あのパネル斜めですよーって教えたら。
香月がこっちをバチーンって。

安藤：マジか。

菊池：宮野先輩にダメだししたら香月からビンタが来るって、
それ以来カメラ部内じゃ暗黙ルール。
それが今じゃ宮野先輩にぶつくさ文句言ってんだから私や叩かれ損だわさ。

安藤：別れりゃいいのに。

菊池：写真家目指すのに、宮野先輩に寄生しないと生きてらんないんじゃない？

安藤：んで。香月が宮野先輩の文句を言うとアンタの腹が壊れると。

菊池：ちょっとちがう。

菊池：去年の春、香月の写真展、行った？

安藤：うん。

菊池：あれ、つまらんかったろ。

安藤：うーん、まあ、うん、まあまあ。

菊池：私あれ腹立ったんよ。

安藤：なんで。

菊池：香月カメラ部のときの写真ってすごい鬼気迫るもんがあったやん。

乳がんのさ、摘出手術したおばさんのヌード写真とか頼み込んで撮ったり
イメクラの前に一日隠れて同じ男の入って行くこと出て行く所を隠し撮って並べてみ
たりさ。

安藤：イメクラね、意外とつまんなかったけどね。

菊池：でもあんな事香月以外誰もしとらんかったやん、少なくともウチの大学のカメラ部では。

安藤：あとはあんたが大崩山（おおくえやま）で撮影中遭難しかけたくらいですかね。

菊池：その話はいいいから。

安藤：あんた香月と張り合ってたろ。

菊池：そんなことないよ。

安藤：いや、張り合っていました。

菊池：・・・まあほら、美人やしいい写真撮るし頭いいしモテモテでとっかえひっかえした挙
げ句に

わざわざ他人の彼氏寝取ってシレッとして腹立つやん。

安藤：はいはい。

菊池：とにかく香月の写真って、なんか切実っていうか凄みがあったんよ、あったと思うんよ
私は。

それが去年の写真展さ猫の写真やったやん。都会に生きる猫を撮りましたって、
既にあるやんそんないくらでもさ、和み系やし全然面白くないし。

安藤：あんたの好みではなかったと。

菊池：帰りに杉っちとも話したもん、あれいまいちだねーって。

ただ猫やから一般受けはいいやん。

やけん遠慮して感想ノートやなくてツイッターでいまいちって言ったんよ、
昔の気迫ある写真のつもりで見に行ったら拍子抜けって。したらフォロー外されて。
で、その事今でも根に持って時々つぶやきよんの。

「あん時は色々大変でくたびれてて心を大きく動かしたくなかったので、
小さな心でそのとき撮れるベストの写真を撮りました」って、
でも写真家が被写体に心動かさなくてどうすんのよって、思わん？

安藤：うーん・・・

菊池：大学1年生の時の誰それがあぁだった傷ついた、
高校の遠足で誰も靴擦れを心配してくれなくて辛かった、
中学の頃お弁当が地味でイヤだったお母さんヒドい、体育の着替え中のぞいた教師死ね
って、

延々延々過去に過去にさかのぼって文句言い続けとんの。

よくそんなに過去にこだわられるなって、

よくいちいち覚えて思い出してツンツンほじくり返せるなって、

逆に面白くってさ時々暇つぶしに見てたらさ、そのたんびに本当に体調崩すんよ。

見てるこっちがこんだけ体調崩すんやったらさ、香月も絶対調子悪いと思うんよね。

安藤：知らないうちに他人を呪って墓穴掘ってると。

菊池：散々ネガティブツイートで負のオーラまき散らすくらいならツイッターやめた方が絶対幸せ。

安藤：あんた、いつからスピ系になったん。

菊池：えー別に全然スピ系ちがうよ。

安藤：オーラとか言うし、さっき上の店で真剣にパワーストーン見てたし。

菊池：あーまあ、ちょっと金運でも上げたいなーと思って。

安藤：ハート形の石触りまくって恋愛運アップじゃーって写真撮りまくってたのは誰ですか。

菊池：観光気分のお上りさんよ。

安藤：わざわざ見るのやめたらいいやん。

香月が誰かを呪おうと自滅しようともう私らには関係ないし。

仮にあんたが呪われたとしてもそれはあんたが恨み買うような爆弾投げ込むけんよ。

菊池：だって香月が将来写真でやってきたいなら誰かが本当の事言ったらんと。

安藤：ウソだね。

菊池：イヤ本当香月のこと思って。

安藤：香月の事とか純粹に思ってるわけないやろ。

菊池：・・・。

安藤：あんた学生の時から香月の事意識し過ぎなんよ。

菊池：別に。

安藤：香月よりいい写真撮るとかいい論文書いてやるとか、

もう学生終わったんだからあんたこそ昔の事ほじくり返して、もう良いじゃん香月の事なんか。

菊池：・・・。

安藤：あんたなんでそんなに香月にこだわるの？

菊池：・・・こだわるっていうか・・・別に。

安藤：・・・。

菊池：・・・。

安藤：・・・。

菊池：・・・腹立ったんだもん。

カメラ部のとき散々人の写真をバカにしといて今さらネコかよ一って思ったら

ちょっと意地悪したくなっただもん。

でも香月の写真はやっぱり大学の時すんごい良くて、いいな、私遭難しても勝てないなって。

香月のカメラ、オリンパスの OM-1、あの子があれ持ってシャッター押すやろ、

すんごくいい音がするの。いつもキレイにネイルしてて、細い指でカシャン、カシャンって。

その真剣に写真撮ってる香月を、こっそり宮野先輩が写真に撮ってるって、

何度も見た事あるやろ？でまたその宮野先輩の撮った香月の写真がきれいなんだわ。

ただでさえ美人なのに、香月写真撮ってるって本当にキレイなの。

同じ物にレンズ向けても香月の写真の方が現像したら印象深いし、

暗室で現像液の中の印画紙を静かにゆらしてる所なんて・・・

なんか呪文とか言ってそうだって、魔女みたい。魔法を使ってたんだと思う。

安藤：……。

菊池：魔法っていうか、思い入れの強さみたいなもんが、写真に写るんやなって。

安藤：……。

菊池：だから写真からそれが消えて、ツイッターの悪口に力注いでるの見たとき、
なんか、もったいないっていうか悔しいっていうか。

安藤：あんたさ、

菊池：私が好きだった写真は、

安藤：単に宮野先輩が好きだったから嫉妬してるんでしょ。

菊池：あ。

安藤：宮野先輩が好きだけど付き合ってる人がいるからあきらめてたのに
香月があっさり強奪したから嫉妬してるんでしょ？

菊池：……別に。

安藤：……。

菊池：別に……みつき、なんで知ってんの？

安藤：あんたが言ったんじゃない私に。

菊池：そうだけ？そうだけか……

安藤：……私は香月の写真、あんたの言う程いいとは思ってなかったけどね。

菊池：そうなの？そうかなあ。

菊池：……別にいいんだけどね。

安藤：ん？

菊池：あーなんかバカだなあ。

安藤：そーですね。

菊池：……ビワの葉茶、バカには効きますかね？

安藤：効かないんじゃないですか。

菊池：そうですか。じゃあいいや。行こうかな。

安藤：次どこか行きたいの？

菊池：ミルクセーキ。

(2人、席を立って去る)